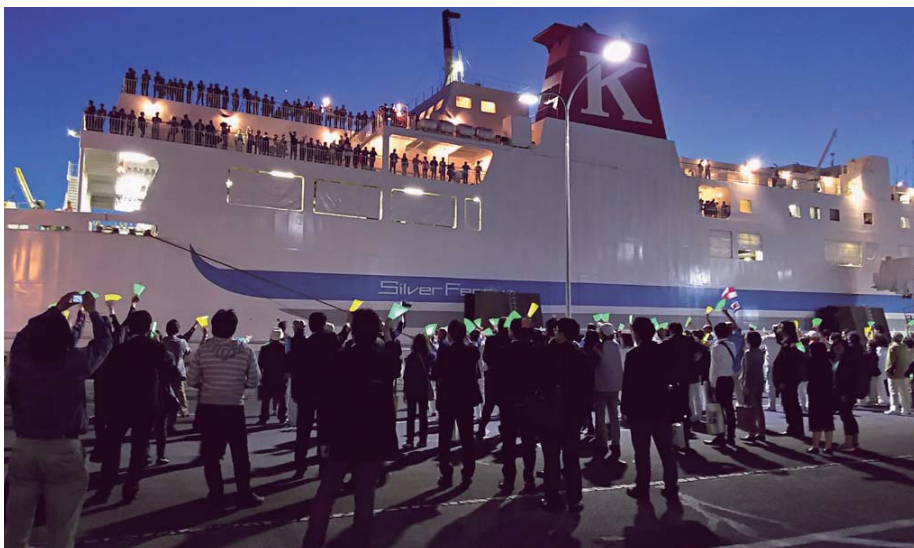


# 市民悲願の 室蘭～宮古フェリー就航



2018年6月22日、第一便の出航を見送る大勢の人たち



室蘭市港湾部 港湾政策課  
主幹 西館 武志氏

工場夜景や白鳥大橋など港の風景が印象的な室蘭。しかし平成20年11月を最後に、室蘭港を利用するフェリー航路は途絶えていました。「もう一度、室蘭にフェリー航路を」。そんな市民の声に後押しされ、2018年6月22日、ついに室蘭と岩手県宮古市を結ぶフェリーが就航。航路復活に尽力された室蘭市港湾部の西館武志氏にお話を伺った。

## ——フェリー就航の経緯を教えてください。

昭和42年、室蘭港(写真1)に北海道発のフェリー航路ができました。それから平成20年まで最大で5つあったフェリー航路が、原油価格の高騰などさまざまな事情により途絶えてしまいました。室蘭で生まれ育った市民にとって、フェリーはあって当たり前のもの。フェリー航路の復活は、室蘭市はもとより市民のみなさんの悲願だったと言えます。

平成20年、東日本フェリーが室蘭港を撤退した直後から、市では新たなフェリー航路の誘致を進めました。それから10年。活動が実り、今回、室蘭—宮古航路が実現しました。

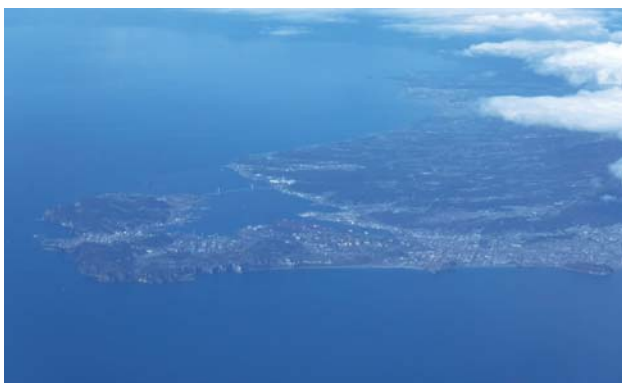


写真1 空から見た室蘭港(平成30年撮影)

## ——どのように誘致活動を進めたのですか？

初めはフェリー会社を回って「よろしく願います」と頭を下げるだけでした。でも、それだけでは結果はついてきません。平成25年度にコンサルタント会社の協力により、港の分析をはじめマーケティング調査を行いました。室蘭港でのフェリー就航に関するポテンシャルの高さを調査結果としてお伝えすることができるようになったのです。それからは、興味を持ってくださる企業が現れ、最終的に川崎近海汽船さんとの間で徐々に具体的な就航に向けての話し合いが行われました。

## ——室蘭港の利用にはどのようなメリットがあるのですか？

フェリー航路を誘致するにあたって、私たちは徹底的に陸路のことを勉強しました。室蘭港から道内各地へのアクセスは、道央自動車道の登別室蘭ICと室蘭IC、二つのICを利用できる点、札幌へのアクセスの良さもセールスポイントです。そもそも、ここには5つもの航路があったのですから、利便性の良さはお墨付きです。

さらに、フェリーを利用する事業者へのアンケート調査の

結果から見えたのは、ドライバーにとってのメリットの大きさです(写真2)。これまで、道内でフェリーが利用できる港は苫小牧、函館、小樽でした。その中で、苫小牧は常に混んでいて乗れないことがある。函館までは陸路が長すぎる。特に道外から来るドライバーにとって冬期間の長距離ドライブは大変な苦勞です。また、函館—青森間の乗船時間3時間40分では休憩時間が足りない。小樽は太平洋側に航路がない。これらのことから、室蘭港にフェリーが就航した場合、「ぜひ活用したい」という声が多く聞かれたのです。

さらに誘致活動中、全国各地で長距離ドライバーによる重大な事故が発生。ドライバーの安全確保や労務管理の必要性が叫ばれる中、室蘭と宮古を結ぶ10時間という航路はドライバーの休息にも最適だったのです。

また、室蘭港は天然の良港と呼ばれるくらい静穏であり、就航率の高さも自慢です。



写真2 乳牛や馬など生き物を運ぶ航路としても活躍

### —そのほかにも、就航を後押しした要因は？

私たちは船がリプレイス(代替建造)する期間を考慮に入れていました。通常、国内のフェリーは15~25年でその役目

を終え、ギリシャや東南アジア諸国に売られます。新しい船を作るには数十億円もかかりますから、新規航路に新しいフェリーを導入するというのはリスクがあります。そこで、ちょうどリプレイスの時期に、まだ十分活躍できる船を新しい航路に振り分けてもらおうと話を持っていきました。それが功を奏して、平成30年の就航が実現。このタイミングを逃せば、次は早くて5年後、遅ければ10年も20年も後になったかもしれません。

### —就航後の経済効果への期待やこれからの目標をお聞かせください。

就航当日はフェリー復活を祝う市民の方々が1200人も室蘭港に駆けつけ、大変なにぎわいになりました。それほど期待が大きかったのだと思います。宮古でも初便を見送る市民の方々が大量来てくれたそうです。フェリーを利用して室蘭や登別温泉などを訪れる観光客も増え、旅客は好調です(写真3)。

また、フェリー以外の港の活用では、来年、試運転が始まる国内最大級のバイオマス発電所の燃料となるパームヤシ殻の輸送が挙げられます。

当面は、この航路を維持すること、そして将来的には他の港と競合しない室蘭港独自の活路を広げ、就航路線を増やして行けたらと考えています。

また、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の際は、岩手県さんのご支援もあり、いち早く緊急車両を室蘭港に上陸させることができました。そういった災害対策面でも港の活用が見直されるのではないのでしょうか。



写真3 貨物と人の交流が戻ってきたフェリーターミナル